

基礎分野

(社会学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	高木 裕貴				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	医療を含むあらゆる社会活動は、近代社会という特定の文脈のもとで成立している。とりわけ医療という分野は、医療技術の発展にともなう社会問題の医療化や、グローバル化の進展にともなう社会構造の変動など、社会現象と不可分に結びついており、近代社会に対する理解が、よりよい医療の実現にとって重要な条件となる。そこで本授業では、社会学の考え方を簡単に概観した後、社会学の各トピックを横断的に扱うことで、社会学の問題意識や考え方を、身の回りの事象を捉えて理解するための導きとし、職業人としての自らの判断に役立てられるようになることを目指す。				
教科書	なし				

具体的な到達目標	
目標 1	社会学で用いられる諸概念の内容を説明することができる。
目標 2	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象を分析して説明することができる。
目標 3	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象に対して自ら判断をくだし、その根拠を説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	85		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	15	算出方法	算出方法
その他	算出方法	欠席ごとに一点減点	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	
教員の实務経験			

実務経験
をいかした
教育内容

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		イントロダクション；社会学とは何か	
2		社会的行為とは何か	
3		社会学の役割は何か	
4		社会秩序はいかにして可能か	
5		家族の社会学	
6		教育学の社会学	
7		職業・労働の社会学	
8		ジェンダーの社会学	
9		民族・エスニシティの社会学	
10		メディアの社会学	
11		都市の社会学	
12		グローバリゼーションの社会学	
13		宗教の社会学	
14		医療の社会学	
15		まとめ：社会学から何を学ぶか	

その他の事項

動画授業では、授業プリントを配布します。試験では論述問題を出題予定です。

基礎分野

(生物学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要

学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	益田 敦子				
授業形態	講 義	教 室	実施教室を選択		
授業目的	<p>生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質できているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の構造と働き、増殖の方法を学ぶ。さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。</p>				
教科書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標

目標 1	生物の特徴について説明できる。
目標 2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標 3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標 4	細胞膜の構造について説明できる。
目標 5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標 6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標 7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標 8	細菌の構造について説明できる。
目標 9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標 10	細胞の増殖の仕方（体細胞分裂、減数分裂）について説明できる。

評価と試験

	前 期	後 期
試験成績	85%	
平常点	15%	算出方法
出席点	算出方法	算出方法
その他	算出方法	算出方法
試験日		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験		
実務経験をいかした教育内容		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、生物の特徴、トピック（ブタ心臓移植と iPS 細胞の脊髄移植について）	
2		生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き	
3		タンパク質の構造と性質 タンパク質の種類と生体内における働き	
4		糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質、糖質の生体内における働き	
5		脂質（単純脂質、複合脂質）の構造と性質	
6		脂質（誘導脂質）の構造と性質、脂質の生体内における働き、 無機質の生体内における働き	
7		細胞の発見と細胞説、細胞の大きさや形 細胞膜の構造と性質、細胞膜における物質輸送の方法	
8		核、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置、リソソームの構造と働き 細胞内における物質の流れ	
9		ミトコンドリア、中心体、液胞、葉緑体、細胞壁、細胞骨格の構造と働き	
10		生物のタイプ：原核生物と真核生物、細菌の構造、ラン藻の構造、細胞の進化	
11		ウイルスの構造、特徴、分類とさまざまなウイルスについて	
12		細胞周期、体細胞分裂、染色体	
13		減数分裂、生殖細胞の形成	
14		復習	
15		復習	

その他の事項

- ・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。
- ・パワーポイントを印刷したものを、配信後ほどなく配布するので、復習に利用して下さい。
- ・ほぼ隔週の対面授業では、復習や質問に対する対応を行なう。

推薦図書 絵でわかる細胞の世界 黒谷明美著 講談社サイエンティフィク 2001年発行
 医学を学ぶための生物学 谷口直之、米田悦啓編集 南江堂 2004年改訂第2版発行

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	高橋佑輔		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	本授業においては医学の基礎となる解剖学のうち、「骨・筋・関節」といった運動器について重点的に学び、国家試験に対応できる学力はもちろんのこと、他科目及び臨床・実技授業においても土台となる運動器の知識を修得する。		
教科書	東洋療法学校協会編 解剖生理 医歯薬出版株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	骨の構造と特徴について説明することができる。
目標 2	筋の構造、起始・停止・作用・支配神経について説明することができる。
目標 3	関節の構造と働きについて説明がすることができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%		70%
平常点	30%	算出方法	小テスト（1回） ※その他の事項要確認
出席点		算出方法	小テスト（回数未定） ※その他の事項要確認
その他		算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	<input type="checkbox"/>	無
教員の実務経験		<input type="checkbox"/>	

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		シラバス及び科目の概要について説明を受ける。	
2		人体の区分・切断面及びそれらを示す際の解剖学的用語について学ぶ。	
3		骨の形状についての用語、骨組織の構造・特徴・部分名称・連結について学ぶ。	
4		脊柱の構成や機能、椎骨の基本形態・連結について学ぶ。	
5		各部の椎骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨）の構造・特徴について学ぶ。	
6		胸骨、鎖骨の構造・特徴について学ぶ。胸郭の全体像及び運動について学ぶ。	
7		上肢帯の骨（鎖骨、肩甲骨）、自由上肢の骨（上腕骨）の構造、特徴について学ぶ。	
8		自由上肢の骨（橈骨、尺骨、手の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
9		下肢帯の骨（寛骨）、自由下肢の骨（大腿骨、膝蓋骨）の構造・特徴について学ぶ。	
10		自由下肢の骨（脛骨、腓骨、足の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
11		脳頭蓋を構成する骨（前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨）の構造・特徴について学ぶ。	
12		顔面頭蓋を構成する骨（鼻骨、涙骨、頬骨、上顎骨、下顎骨、舌骨）の構造・特徴について学ぶ。	
13		上肢の関節（肩関節～手指の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
14		下肢の関節（股関節～足趾の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
15		体幹（頸部・胸腰部）の関節の構造と働きについて学ぶ。	
16		前期試験範囲の復習	
T		前期試験	
17		前期試験の解答・解説、筋の構造・神経・作用と運動について学ぶ。	
18		上肢帯の筋（棘上筋、棘下筋、小円筋、三角筋、肩甲下筋、大円筋）、 上腕の筋（烏口腕筋、上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋）の起始、 停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
19		前腕の筋（円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、浅指屈筋、尺側手根屈筋、深指屈筋、 長母指屈筋、方形回内筋、腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、 小指伸筋、尺側手根伸筋）、前腕の筋（回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、 示指伸筋）、手内筋（短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、掌側骨間 筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
20		上肢の筋まとめ	
21		下肢帯の筋（腸腰筋、大・中・殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、 下双子筋、大腿方形筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
22		大腿の筋（縫工筋、大腿四頭筋、膝関節筋、恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、 薄筋、外閉鎖筋）、大腿の筋（大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋）の起始、停止、走	

		行、作用、支配神経について学ぶ。
23		下腿の筋（前脛骨筋、長母趾伸筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋）、下腿の筋（下腿三頭筋、足底筋、膝窩筋、後脛骨筋、長趾屈筋、長母趾屈筋）、足内筋（短母趾伸筋、短趾伸筋、母趾外転筋、短母趾屈筋、母指内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
24		下肢の筋まとめ
25		胸筋（大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋、外肋間筋、内肋間筋、最内肋間筋、肋下筋、胸横筋、肋骨挙筋、横隔膜）、腹筋（腹直筋、錐体筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋）、会陰筋の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
26		背筋（僧帽筋、広背筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、上後鋸筋、下後鋸筋、板状筋、脊柱起立筋、横突棘筋、小後頭直筋、大後頭直筋、上頭斜筋、下頭斜筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
27		顔面部の筋（前頭筋・眼輪筋・鼻筋・頬筋・口輪筋・広頸筋・咀嚼筋など）の概要、頸部の筋（広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、斜角筋、椎前筋、項部の筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
28		体幹・顔面・頸部の筋まとめ、眼窩部、鼻部、顎下三角、顎動脈三角、筋三角、後頸三角について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。
29		筋裂孔、血管裂孔、大腿三角、内転筋管、大・小坐骨孔、膝窩、下腿の筋区画について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。
T		後期試験
30		骨・筋まとめ

その他の事項

<小テストについて>

- ・前期 対面時の授業内で1回行う。
小テストの結果を30%換算したものを平常点とする。
- ・後期 現時点で回数は未定であるが対面時の授業内で行う。
小テストの平均点を30%換算したものを平常点とする。
- ・担当者メールアドレス
takahashi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	<p>本授業においては、医学の基礎となる解剖学のうち、「循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系」を重点的に学ぶ。本授業では、国家試験に対応できる力を育成することのみならず、他科目と確実に連携できることを目的として実施し、頭の中で人体の各臓器の構造が3次元で構成できることを最終的な目標とする。</p>				
教科書	東洋療法学校協会 解剖生理 第1版				

具体的な到達目標	
目標 1	細胞、組織の構造について理解し説明することができる。
目標 2	心臓の構造を理解し説明することができる。
目標 3	全身の血管系の流れを理解し説明することができる。
目標 4	血管の構造を理解し説明することができる。
目標 5	リンパ系の役割・各種リンパ系器官の構造を理解し説明することができる。
目標 6	呼吸器の流れ、各呼吸器系器官の構造を理解し説明することができる。
目標 7	各消化器官の構造や流れについて理解し説明することができる。
目標 8	各泌尿器官の構造や流れについて理解し説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	— 算出方法 —	算出方法	—
出席点	— 算出方法 —	算出方法	—
その他	— 算出方法 —	算出方法	—
試験日	—		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅠ。ガイダンス。	
2		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅡ。 第5章循環系：循環の概要と血管の構造について学ぶ。	
3		第5章循環系：血管の構造と吻合、門脈の概要について学ぶ。	
4		第5章循環系：心臓の構造(位置・心膜・壁)について学ぶⅠ。	
5		第5章循環系：心臓の構造(房室・弁・刺激伝導系)について学ぶⅡ。	
6		第5章循環系：心臓の構造(心臓血管)について学ぶⅢ。	
7		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(大動脈・胸大動脈)について学ぶⅠ。	
8		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(腹大・上肢の動脈)について学ぶⅡ。	
9		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(総腸骨動脈)について学ぶⅢ。	
10		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(上半身・下半身)について学ぶⅣ。	
11		第5章循環系：静脈と胎児循環について学ぶ。	
12		第5章循環系：リンパ系(総論)について学ぶ。	
13		第5章循環系：リンパ系(リンパ節・脾臓)について学ぶ。	
14		第5章循環系：リンパ系(胸腺・扁桃)について学ぶ。	
15		第5章の総復習。	
16		第7章呼吸器系：鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について学ぶ。	
17		第7章呼吸器系：気管系・肺について学ぶ。	
18		第8章消化器系と代謝・栄養：消化管の壁構成について学ぶ。	
19		第8章消化器系と代謝・栄養：口蓋・軟口蓋・舌について学ぶ。	
20		第8章消化器系と代謝・栄養：歯・唾液腺・咽頭について学ぶ。	
21		第8章消化器系と代謝・栄養：食道・胃について学ぶ。	
22		第8章消化器系と代謝・栄養：小腸について学ぶ。	
23		第8章消化器系と代謝・栄養：大腸について学ぶ。	
24		第8章消化器系と代謝・栄養：肝臓・胆嚢について学ぶ。	
25		第8章消化器系と代謝・栄養：膵臓の・腹膜について学ぶ。	
26		第8章消化器系と代謝・栄養：消化器の位置・構造等を総括的に学ぶ。	
27		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅠ。	
28		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅡ。尿路(尿管)について学ぶⅠ。	
29		第9章泌尿器系：尿路(膀胱・尿道)について学ぶⅡ。	
30		第7章・8章・9章の総復習。	

その他の事項

解剖学は形態・構造の理解を目指す学問です。人体の構造に対する知識は、すべての医学分野の学習において欠く事のできないものと考えます。何度も反復学習することが重要になります。何か不明な点がございましたら分からないままにせず、気軽に質問していただけたらと思います。

担当教員メールアドレス : y-kanai@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	佐藤陽子		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>「生理学」は人体の構造や機序を知る上で、医学の基礎的分野を担います。</p> <p>人体の構造や機能、機序をきちんと理解しなければ、生体機能の異常である「疾患」を理解できません。</p> <p>人に触れ、直接的に施術を行うはり師・きゅう師にとって、人体の構造と機能を正しく理解することは、施術の安全性や病態鑑別の点からも重要なことです。また、「生理学」で学ぶ知識は、その後に学ぶことになる様々な科目の理解に繋がるものであり、医療分野の教育の基盤となります。本授業では、人体の生命維持に必要な基本的な仕組みである、代謝・内分泌・生殖・神経の機能 について学習することで、臨床の現場において遭遇する疾患の機序を考察でき、他の科目や臨床への応用ができるものと考えます。</p>		
教科書	東洋療法学校協会 編、解剖生理 第1版、医歯薬出版 株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	ATP を合成する過程について説明することができる。
目標 2	三大栄養素およびビタミン・ミネラルの特徴・役割について説明することができる。
目標 3	ホルモンとその主な作用について説明することができる。
目標 4	ホルモンの分泌器官・標的組織・分泌調整の流れを説明することができる。
目標 5	生殖器の構造と生殖に関わるホルモンについて説明することができる。
目標 6	生体のリズムと加齢変化について説明することができる。
目標 7	活動電位の発生メカニズム、静止電位の成因を説明できる。
目標 8	神経の興奮伝導、シナプス伝達の生理学的特性について説明することができる。
目標 9	中枢神経系の機能を部位ごとに説明することができる。
目標 10	末梢神経系(脳・脊髄・自律神経)の各機能を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	期末試験 100%	期末試験 100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	
教員の实務経験			

実務経験
をいかした
教育内容

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第8章 B. 代謝と栄養-1. 代謝とは	P. 226
2		第8章 B. 代謝と栄養-2. 糖質	P. 226～227
3		第8章 B. 代謝と栄養-3. 脂質, 4. タンパク質	P. 228～229
4		第8章 B. 代謝と栄養-5. ビタミン, 6. ミネラル	P. 230～231
5		第8章 B. 代謝と栄養「まとめ」	
6		第10章 A. 内分泌系の総論	P. 244～247
7		第10章 B. 内分泌系の各論-1. 視床下部と下垂体	P. 247～249
8		第10章 B. 内分泌系の各論-2. 甲状腺と副甲状腺, 3. ランゲルハンス島(膵島)	P. 250～253
9		第10章 B. 内分泌系の各論-4. (1～3) 副腎皮質	P. 253～255
10		第10章 B. 内分泌系の各論-4. (4) 副腎髄質, 5. その他のホルモン	P. 255～256
11		第10章 B. 内分泌系の各論-6. ホルモンによる体液の調整, 第10章「まとめ」	P. 256
12		第11章 A. 生殖とは	P. 262～269
13		第11章 B. 妊娠と発生	P. 269～273
14		第11章 C. 生体のリズムと加齢変化	P. 273～276
15		第11章「まとめ」	
16		第3章 A. 神経系と神経組織-1. 神経系の分類, 2. 神経組織	P. 82～84
17		第3章 A. 神経系と神経組織-3. 神経細胞の興奮と伝導, 4. シナプス伝達	P. 84～87
18		第3章 B. 中枢神経系-1. 中枢神経系の構造, 2. 中枢神経系の統合機能	P. 87～89
19		第3章 B. 中枢神経系-3. 大脳 (1)大脳の構造, (5)大脳の白質, (2)新皮質	P. 89, 92/P. 90～
20		第3章 B. 中枢神経系-3. 大脳 (2)新皮質, (3)大脳辺縁系, (4)大脳基底核	P. 90～92
21		第3章 B. 中枢神経系-4. 間脳, 6. 小脳	P. 93, 95～96
22		第3章 B. 中枢神経系-5. 脳幹	P. 94～95
23		第3章 B. 中枢神経系-7. 脳波と睡眠, 8. 脊髄, 9. 中枢神経系の保護と栄養	P. 96～100
24		第3章 A, B「まとめ」	
25		第3章 C. 伝導路と運動調節-1. 運動性の下行路, 2. 感覚系の伝導路	P. 100～103
26		第3章 C. 伝導路と運動調節-3. 骨格筋の神経支配, 4. 運動反射	P. 103～106
27		第3章 D. 末梢神経系-1. 脳神経	P. 106～112
28		第3章 D. 末梢神経系-3. 自律神経系	P. 121～
29		第3章 D. 末梢神経系-3. 自律神経系	P. 121～
30		第3章 C, D「まとめ」	

その他の事項



授業概要			
学 科	第1鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	4	必要時間数	80 時間
担当教員	岩本 奈己		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>自然界で生きるヒトにとって、自然は切っても切り離せない関係であり、季節の変化や天気・気温などに影響を受ける。東洋医学は自然の在り方と人体の機能・状態を結び付ける考え方を学ぶ学問である。</p> <p>この授業では</p> <p>① 東洋医学独自の考え方を知り、学習した内容を自身や身近な人の体調観察に役立てられるようになること</p> <p>② 学習した範囲の国家試験問題の内容を理解できるようになること</p> <p>を目的とする。</p>		
教科書	新版『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編）医道の日本社		

具体的な到達目標	
目標1	東洋医学の考え方『天人合一思想』『陰陽学説』『五行学説』を説明することができる。
目標2	東洋医学的に身体のしくみ『陰陽』『気・血・津液・精』『五臓六腑』『経絡』を説明することができる。
目標3	心と身体のつながり『五行色体表』『蔵象』を説明することができる。
目標4	経絡経穴概論と東洋医学概論の学習内容を結び付けることができる。
目標5	東洋医学的に自分や身近な人の身体状態を説明することができる。
目標6	東洋医学的な病の原因『外因』『内因』を説明することができる。
目標7	現れている不調から身体状態（基本的な病証）を説明することができる。
目標8	東洋医学的な診察『四診』の内容を説明することができる。
目標9	『四診』から基本的な病証の判別ができる。
目標10	日常の中で東洋医学的な発見を楽しめるようになる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80%		80%
平常点	20%	算出方法 課題提出	20%
出席点	0%	算出方法	0%
その他		算出方法	算出方法
試験日	別途指定する。		別途指定する。

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成施設附属治療所にて2年間の実務経験あり。

**実務経験を
いかした
教育内容**

鍼灸臨床や日常で遭遇する事柄の東洋医学的な見方の具体例を示し、
2年次から始まる臨床実習で、不調の原因の予測や治療方針を大まかに考えられるように授業を行なう。

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		シラバス説明、東洋医学の特徴、人体の見方『天人合一思想』	本日の復習
2		人体の見方『陰陽学説』『五行学説』	本日の復習
3		自然界と人体との関係、人の身体を構成する生体物質『気・血・津液・精』と神	本日の復習
4		人体の生体物質『気・血・津液・精』の作用 ①	本日の復習
5		人体の生体物質『気・血・津液・精』の作用 ②	本日の復習
6		東洋医学的な『臓腑』の考え方、『臓腑と生体物質』の関係 〈蔵象〉五臓：『肝』『心』の生理作用	本日の復習
7		〈蔵象〉五臓：『心包』『脾』『肺』の生理作用	本日の復習
8		〈蔵象〉五臓：『腎』の生理作用	本日の復習
9		〈蔵象〉六腑：『胆』『小腸』『胃』の生理作用	本日の復習
10		〈蔵象〉六腑：『大腸』『膀胱』『三焦』の生理作用	本日の復習
11		〈蔵象〉奇恒の腑、五行色体表	本日の復習
12		〈経絡〉	本日の復習
13		〈病因・病機〉『外因』と『外感病』①	本日の復習
14		〈病因・病機〉『外因』と『外感病』②	本日の復習
15		〈病因・病機〉『内因』『病理産物とその他の病因』と『内傷病』①	本日の復習
16		〈病因・病機〉『内因』『病理産物とその他の病因』と『内傷病』②、『内生五邪』	本日の復習
17		〈疾病の部位、性質、正気・邪気の盛衰の弁別〉『八綱弁証』 〈八綱弁証〉『表証・裏証』『寒証・熱証』	本日の復習
18		〈八綱弁証〉『虚証・実証』『陰証・陽証』	本日の復習
19		〈生体物質の失調と病理〉『気血津液弁証』 〈気血津液弁証〉『気』の病理、『血』の病理	本日の復習
20		〈気血津液弁証〉『津液』の病理、『精』の病理	本日の復習
21		〈五臓六腑の失調と病理〉『臓腑弁証』 〈臓腑弁証〉『肝・胆』の病理①	本日の復習
22		〈臓腑弁証〉『肝・胆』の病理②、『心・小腸』の病理①	本日の復習
23		〈臓腑弁証〉『心・小腸』の病理②	本日の復習
24		〈臓腑弁証〉『脾・胃』の病理①	本日の復習
25		〈臓腑弁証〉『脾・胃』の病理②、『肺・大腸』の病理①	本日の復習
26		〈臓腑弁証〉『肺・大腸』の病理②、『腎・膀胱』の病理①	本日の復習
27		〈臓腑弁証〉『腎・膀胱』の病理②	本日の復習
28		〈経絡弁証〉『十二経脈』	本日の復習

29		〈経絡弁証〉『十二経脈』	本日の復習
30		〈経絡弁証〉『奇経八脈』	本日の復習
31		〈東洋医学的診察〉『四診』 〈四診〉『望診』①（各項目・舌診）	本日の復習
32		〈四診〉『望診』②（舌診）	本日の復習
33		〈四診〉『聞診』（各項目）	本日の復習
34		〈四診〉『問診』①（主訴・寒熱・飲食・睡眠・二便・情志）	本日の復習
35		〈四診〉『問診』②（生活環境、身体各部の症状、汗、疼痛）	本日の復習
36		〈四診〉『問診』③（女性に対する問診事項、既往歴、社会歴）	本日の復習
37		〈四診〉『切診』①（反応・腹診）	本日の復習
38		〈四診〉『切診』②（切経、脈診）	本日の復習
39		〈四診〉『切診』③（脈状診、脈差診）	本日の復習
40		東洋医学の歴史と主要古典の概要	本日の復習

その他の事項

【課題提出について】

課題提出の日程は適宜アナウンスします。

課題提出は原則 30 分対面授業日に提出とします。（提出日は守ってください）

対面授業日に欠席の場合は、直近の登校日に担任もしくは岩本に提出してください。

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	4	必要時間数	80
担当教員	下宮 啓佑		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	経絡経穴概論は、はき学を学ぶ上で重要な柱の 1 つである。経穴は、身体各部の状態が体表上に反映される部位であり、同時に、刺激をすることで身体各部に影響を与えることができる、診断・施術において重要なポイントである。本講義では経絡の種類、作用、流れ、経穴の名称、部位、意義を学び、臨床において経穴を応用できる基礎知識を身につける。		
教科書	「新版 経絡経穴概論」(医道の日本社)		

具体的な到達目標	
目標 1	督脈・任脈の流注、部位を覚える。
目標 2	手の太陰肺経～足の厥陰肝経までの経絡の流注、部位を覚える。
目標 3	取穴する上で必要な骨度法を覚える。
目標 4	五行穴、五要穴を覚える。
目標 5	奇経八脈・奇穴を覚える。
目標 6	経絡経穴の現代的研究を覚える。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80%		80%
平常点	20%	算出方法	小テスト
出席点		算出方法	
その他		算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、経絡経穴の概要①	
2		経絡経穴の概要②、骨度法	
3		督脈の流注・経穴名・部位について①	
4		督脈の流注・経穴名・部位について②	
5		任脈の流注・経穴名・部位について①	
6		任脈の流注・経穴名・部位について②	
7		手の太陰肺経の流注・経穴名・部位について	
8		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について①	
9		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について②	
10		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について①	
11		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について②	
12		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について③	
13		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について①	
14		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について②	
15		手の少陰心経の流注・経穴名・部位について	
16		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について①	
17		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について②	
18		督脈～手の太陽小腸経の復習	
19		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について①	
20		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について②	
21		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について③	
22		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について①	
23		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について②	
24		手の厥陰心包経の流注・経穴名・部位について	
25		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について①	
26		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について②	
27		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について①	
28		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について②	
29		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について③	
30		足の厥陰肝経の流注・経穴名・部位について	
31		足の太陽膀胱経～足の厥陰肝経の復習	
32		五行穴・五要穴について	
33		その他の要穴について	
34		胸腹部の横並びについて	

35		腰背部の横並びについて
36		紛らわしい経穴について
37		奇経八脈について
38		奇穴について①
39		奇穴について②
40		経絡経穴の現代的な研究について

その他の事項

--

授業概要			
学 科	本 科	学 年	1 年
単 位 数	1	必要時間数	20
担当教員	棟居 清峰		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>鍼灸施術において、利用する鍼と灸に関する道具の名称や術式など、基礎的な知識を理解することは、施術を円滑に進めるためには必要な知識である。そのため、本授業では鍼灸の基礎知識を学習する。</p> <p>また、はり師きゅう師は、患者の情報を把握したうえで、鍼灸施術の適否を判断すること、患者の感受性に応じて適切な刺激量を見極めることが必要である。本授業では、安全に施術を行えるように、鍼灸治療の適応や禁忌、リスクとその回避の方法等を学習する。</p>		
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう理論、医道の日本社		

具体的な到達目標	
目標 1	鍼の基礎知識として（各部の名称・長さ・太さ・鍼尖の形状）を説明することができる。
目標 2	古代九鍼の種類と使用方法について説明することができる。
目標 3	刺鍼の方式〔撚鍼法・打鍼法・管鍼法〕と刺鍼の術式〔押手・刺手・切皮など〕を説明することができる。
目標 4	刺鍼中の手技について説明することができる。
目標 5	特殊鍼法の種類と特徴について説明することができる。
目標 6	灸の基礎知識（灸の材料・線香について）を説明することができる。
目標 7	灸術の種類とその特徴を説明することができる。
目標 8	鍼灸施術の刺激量や感受性について説明することができる。
目標 9	鍼灸施術の適応症、禁忌について説明することができる。
目標 10	リスク管理（施術上の一般的注意、鍼灸療法の過誤と副作用、感染症対策）について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	別途、設定する。		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で12年間の実務経験あり。

**実務経験
をいかした
教育内容**

鍼灸施術に必要とされる衛生操作と、安全に施術するための基礎知識を教授する。

授業の内容

回数	内容	備考
1	オリエンテーション、鍼灸施術の定義、鍼灸治療の特徴、毫鍼の各部名称	
2	鍼の長さ・太さ、鍼尖の形状の種類、鍼の材質と特徴、鍼管の材質と形状	
3	古代九鍼、刺鍼の方式と術式	
4	刺鍼の方式と術式	
5	灸の基礎知識、灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用（刺激量・適応症・禁忌）	
7	リスク管理の基本、鍼施術の過誤と副作用	
8	鍼施術の過誤と副作用、灸施術の過誤と副作用	
9	感染対策、特殊鍼法	
10	復習	

その他の事項

<連絡先>

munesue@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	第1鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	90
担当教員	棟居 清峰		
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室
授業目的	本授業は、基本的な刺鍼の手順、安全な鍼操作を理解、習得することが目的である。また、鍼灸臨床におけるステンレス鍼と銀鍼の使用方法を学び習得することで基礎を構築する		
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年		

具体的な到達目標	
目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること
目標3	安全に刺鍼することができるように一連の手順を正確にできること
目標4	刺鍼に関わる動作（揉捻法・押手・切皮・刺入・抜鍼）が適切に行えること
目標5	指定された角度・深度に刺鍼することができること

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	55%（試験合格を以って55%を加算する）		55%（試験合格を以って55%を加算する）
平常点	35%	算出方法 「その他の事項」に記載	35%
出席点	10%	算出方法 「その他の事項」に記載	10%
その他	算出方法		算出方法
試験日			

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で11年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に刺鍼するための基礎実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・実技室の使い方・道具の確認・道具の準備・手洗いについて]	
2	両手挿管、片手挿管の方法、刺鍼練習台を用いて片手挿管の練習	
3	刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼]	
4	反復練習 (刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼])	
5	直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について	

- 6 反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について）
- 7 直刺での刺鍼、旋撚刺法
- 8 反復練習（直刺での刺鍼、旋撚刺法）
- 9 直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法
- 10 反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法）
- 11 人体への刺鍼手順、消毒手順、十七手技〔副刺激術、置鍼術、示指打法、刺鍼転向法〕
- 12 自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕
- 13 自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕、消毒手順確認
- 14 自身の体への刺鍼〔下腿〕、斜刺での刺鍼
- 15 自身の体への刺鍼〔下腿〕、直刺・斜刺での刺鍼
- 16 片手挿管、刺鍼の手順、消毒手順の確認
- 17 自身の身体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔直刺・斜刺〕
- 18 自身の身体への刺鍼〔下腿〕、十七手技〔単刺・雀啄術〕
- 19 自身の身体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔直刺〕
- 20 他者の体への刺鍼〔下腿〕、タオルの取り扱い方
- 21 他者の体への刺鍼〔下腿〕、十七手技〔間歇術〕、消毒手順確認
- 22 他者の体への刺鍼〔腰部〕、十七手技〔屋漏術〕
- 23 他者の体への刺鍼〔腰部〕、試験十七手技〔振せん術〕
- 24 試験
- 25 試験
- 26 試験結果を踏まえての基礎実技、他者の体への刺鍼〔上・中背部〕、十七手技〔旋撚術〕、
鍼寸3の取り扱いについて
- 27 他者の体への刺鍼〔上・中背部〕、十七手技〔回旋術〕
- 28 他者の体への刺鍼〔上肢〕、十七手技〔随鍼術〕
- 29 他者の体への刺鍼〔上肢〕、十七手技〔内調術〕
- 30 他者の体への刺鍼〔腹部〕、十七手技〔細指術〕
- 31 他者の体への刺鍼〔頸部〕、十七手技〔鍼尖転移法〕
- 32 他者の体への刺鍼〔頸部〕、十七手技〔管散術〕
- 33 他者の体への刺鍼〔背部〕
- 34 他者の体への刺鍼〔腰背部〕
- 35 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 36 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 37 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 38 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 39 鍼と灸を合わせたの施術〔仰臥位・伏臥位〕
- 40 鍼と灸を合わせたの施術〔仰臥位・伏臥位〕

41 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]

42 試験

43 試験

44 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]

45 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]

その他の事項

【共通】

- <試験成績> 55% (試験合格を以って55%を加算する)
- <出席点> 10% (3/4以上の出席を以て10%を加算する)
- <平常点> 35%

【平常点内訳】

[提出物 20%] 全提出の3/4以上を持って20%に加算する。提出日厳守

[その他 15%] 以下の内容、1回チェックにつき1点減点とする。

- 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
- 実技に必要な道具・備品（バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあって以降）を忘れた場合。
- 身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。
- 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・鍼の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、先ずは1年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入できること。

【1年生の目標】

1年生では誤差±5mm以内で刺入できること。

※但し、目的の深度が1cmの場合は下限を7mmとする。

(直刺) 90°を目標として刺鍼する。

1年生は誤差±15°以内で刺入できること

(斜刺) 基本45°を目標として刺鍼する。

1年生は45°に対して誤差±15°以内で刺入できること。

斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

授業概要

学 科	第1鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90	実施時間数	90
担当教員	前田 朱美				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床において、広く行われている灸法である知熱灸と透熱灸を、施術において用いることができるようにすることが本授業の目的である。知熱灸と透熱灸という灸法の手順を理解し、灸の基礎的な操作を学習する。				
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年				

具体的な到達目標

目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる。
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること。
目標3	安全に施灸することができるよう施灸の手順が正確にできること。
目標4	散艾から指定された大きさの艾炷を作成することができること。
目標5	作成した艾炷に安全に着火することができ、線香を安全に扱えること。

評価と試験

	前 期		後 期	
試験成績	55%（試験合格を以って55%を加算する）		55%	
平常点	35%	算出方法 「その他」に記載	35%	算出方法 「その他」に記載
出席点	10%	算出方法 「その他」に記載	10%	算出方法 「その他」に記載
その他		算出方法		算出方法
試験日				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。往診にて3年、教員養成科附属治療院にて2年間、本校附属治療所で5年間の実務経験あり。現在は鍼灸院に勤務している。	
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施灸するための基礎実技を行う。	

授業の内容

回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・実技室の使い方・モグサの確認・道具の準備・身だしなみ]	
2	お灸の概要、施灸の練習方法、艾炷を捻る指の動きの練習	
3	反復練習	
4	米粒大艾炷の作成 [手拭い]	
5	米粒大艾炷の作成 [板]	

- 6 線香の扱い方、艾炷への着火、米粒大艾炷の作成 [板]
- 7 反復練習
- 8 灸療リングの使い方、米粒大艾炷の作成 [紙]
- 9 反復練習
- 10 米粒大艾炷の作成 [竹]
- 11 [板・紙・竹]を用いて施灸の反復練習
- 12 人体への施灸手順、知熱灸の方法 [板の上での練習]
- 13 自身の体への施灸 [失眠]
- 14 自身の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 15 自身の体への施灸 [下腿]
- 16 試験
- 17 試験
- 18 他者の体への施灸 [失眠]、ベッド操作、タオルの扱い、声掛け
- 19 他者の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 20 他者の体への施灸 [下腿]
- 21 艾炷を捻る指の動き、艾炷の大きさ、着火など施灸動作一連の流れの確認
- 22 半米粒大の艾炷作成 [板・紙]
- 23 透熱灸の方法 [板の上での練習]、自身の体への施灸 [失眠]
- 24 自身の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 25 他者の体への施灸 [失眠]
- 26 他者の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 27 仰臥位と伏臥位の施灸、米粒大・半米粒大、知熱灸・透熱灸の使い分け
- 28 他者の体への施灸 [腰部]
- 29 他者の体への施灸 [背部]
- 30 他者の体への施灸 [上肢]
- 31 他者の体への施灸 [腹部]
- 32 他者の体への施灸 [下肢]
- 33 他者の体への施灸 [腰背部]
- 34 他者の体への施灸 [腹部]
- 35 他者の体への施灸 [上肢・下肢]
- 36 他者の体への施灸 [肩背部]
- 37 他者の体への施灸 [仰臥位・伏臥位]
- 38 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 39 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 40 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]

41 試験

42 試験

43 台座灸

44 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]

45 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]

その他の事項

【共通】

- <試験成績> 55% (試験合格を以って 55%を加算する)
- <出席点> 10% (授業コマ数の 3/4 以上を以て 10%に加算する)
- <平常点> 35%

【平常点内訳通学授業の場合】

[提出物 20%] 全提出の 3/4 以上を持って 20%に加算する。提出期限厳守

[その他 15%] 以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。

- 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
- 実技に必要な道具・備品（バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあつて以降）を忘れた場合。
- 身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。
- 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・灸の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があつて、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、先ずは 1 年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

人体に対し 3 分間で 12 壮、半米粒大の透熱灸（熱緩和を行う）ができること。

【1 年生の目標】

1 年生では 3 分間に米粒大 8 壮、半米粒大 10 壮

（例）失眠穴へ 3 分間（半米粒大）と透熱灸、熱緩和あり、左右交互 10 壮施灸できること。

1 年生は、紙への施灸は（200 壮／週）10,000 壮（通年）